

第2回 共生社会被災者支援の会
議事録

お知らせ 次回の会合は、4月
11日(月)午後6時半から梅田サ
テライトで開催予定です。詳細は、
追ってMLなどでご連絡します。

日時 2011年3月26日午後4時30分から
場所 梅田サテライト108号室

参加者 柏木宏、矢野裕俊、弘田洋二、阿久澤麻理子(以上、教員)、阪野修、坂口一美、
堺昭生、梁優子、李千秋、前川武志、新家潤子、尾崎力、後藤陽子、李恵子、矢
野裕子、石井宏典、村井麻知子、中野冬美、佐野美保、柴田由布子、吉野俊明、
堀久仁子、池田久美子

はじめに

配布資料の確認を行った後、参加者の自己紹介をした。

1) 経過報告(阪野)

4期生のメーリングリストに「関西の中間支援・NPOによる東北地震・津波被災地支援に関する情報交換の集会」の議事録を流したところ、それを見た坂口さんから連絡があり、ご家族の被災と気仙沼での支援活動について相談があった。そこで分野に提起し3月20日に会合を開いたうえで「共生社会被災者支援の会」を発足した。発足会では主にメーリングリストや義援金口座の開設ならびに支援リストの作成のための登録票の必要性などが検討された。他にも4トントラックで気仙沼まで義援物資を運搬するという議論も出たが、その後の事態の進展や整理を兼ねて本日の会合を開催する運びとなった。

2) 坂口さんからの意思表示

気仙沼市は地理的に交通の便が非常に悪く、仙台から100Kmも離れているうえに現在道路が分断されており、支援物資が届きにくい状況にある。

現場の事情を知るために4月1日に花巻空港から一関までゆき、そこから農園の方の支援を借りて千厩を経由して気仙沼入りを希望(予定とまでも言えないかも)している。

震災で行方不明の姉の安否確認もしたいが、大学院で学んだことを生かして、家族の支援だけでなく現地で支援に向けたネットワークを築くことを考えている。

いきなり大阪から行って被災者の思いを聞くのは困難と思われるので、喫茶コーナーなど市民の方がホッとくつろげるような空間を設けたりすることで、様々な支援へのつなぎ役として活動したい。

3) 活動報告

情報収集について(柏木)

現地のNPOと連携した活動を行う可能性を検討するため、ネットサーチしたところ、気仙沼でもいくつかNPOが存在していることがわかったが、大半は震災後、ウェブの更新がなされていない。しかし、障害者支援を行っているネットワークオレンジがブログ(<http://blog.canpan.info/orange-orange>)などで支援状況などを報告している。

その他にも宮城県の県人会が隣の第一ビルにあることがわかっているので、そこから情報を得ることもできると思う。

募金活動・口座開設について（前川）

ゆうちょ銀行に口座を開設。資料とした配布したチラシには2種類の口座番号が書かれてあるが、同じ口座である。

MLの作成と参加募集について（後藤）

- ・3月22日にML登録のお願いメールを発信、現在25～26名くらいの方へ招待メールを送っている。招待メールを送っているが登録手続きが完了していない人がいるので、手続きがわからない人がいれば、教えて欲しい。
- ・ML受付の窓口について、現在、新家さんと後藤の両方で登録を受付しているが、実際の手続きは新家さんがなっているので、連絡ミスを防ぐために、一つにして欲しい。
- ・MLに添付するファイルについて、VistaやWindows7などを使用されている方でWord2007など新しいバージョンのソフトで作成された場合、Word2003などの旧バージョンで見ることができないという事態が起きている。新バージョンで作成された方は旧バージョン(Word2003など)で保存したものを添付して送信して欲しい。

一関拠点・移送計画（前川）

4トントラックで坂口さんの移送と物資の運搬、ベースキャンプの設置を考えていたが、現在トラックが手配できない状況である。また、千厩までは交通手段を確保できるものの、そこから気仙沼までの交通手段が問題である。

4) 今後の活動について

活動範囲の確認

- ・会の活動内容を具体的に示せば、「坂口さんとともに気仙沼の市民を支援する会」ということになると思う。
- ・現地の社会福祉協議会やNPOと分野内の活動団体とつなげられればよいと思うが、まずはコネクションを作ってもらえればよいと思う。
- ・被災地が広域なので何をするのかということを考えてゆく必要がある、坂口さんの気仙沼の縁をベースにして気仙沼を中心に支援してゆくことでよいと思う。
- ・場所を特定して活動を行なってゆくことは良いと思う。

以上の意見を受け、活動は気仙沼を中心にしていくことが確認された。

- ・ご家族の安否も不安なところなのに、特派員のような任務は坂口さんの負担になるのではないか。
- ・現地に行って情報収集すら難しい可能性があるのではないか。

こうした懸念に対して、実際には、4月1日に坂口さんが現地入りしたうえでの判断を待つしかないが、現段階では、坂口さんは長期的な支援を行うため会と現地のつなぎ役を果たしたいという強い意志があり、それを支援する形の活動を4月に一時帰阪した際議論するということでおおむね合意された。また、坂口さんが現地で活動支援を受けることができそうな人的資源について、教育委員の仕事の関係で共に韓国に行ったメンバー10名が無事であることが確認できている。それ以外に、坂口さんの実兄が防災センターにおられるため、地域の情報が収集し易く、携帯電話の充電も可能なため情報発信は可能と思われるなどが報告された。なお、この件に関連して、以下の

ような意見がでた。

- ・坂口さんが支援のために利用できる資源を用意しておいて、必要に応じて利用してもらおうということではいいのではないか。(このため「宮城県(気仙沼地域)支援プロジェクト・登録票」作成しており、記載、会に提供してもらいたい=議事録作成者による補足)
- ・坂口さんが実際に行ってみて、坂口さん自身の活動の範囲内で情報提供してもらい支援体制を整えていくことでいいのではないか。

MLの管理人について

活動報告で後藤さんの提起を受け、MLの管理人は、新家さんに一本化することになった。

募金活動について

- ・募金目的、具体的な用途などを決めた後、募金を始めた方がよい。
- ・ただし、坂口さんが個人的に受ける募金などについては連絡先を聞いたうえで受けておき、後で確認をとることにする。(会議後、このために募金用紙を作成し確認作業ができるようにすることにした=議事録作成者による補足)

次回の会議について

坂口さんは、4月6日に一度大阪に戻ることにしている。その後、4月12日に再度気仙沼に向かわれるため、その間に報告会を開催したい。日程的に4月11日(月)夜の可能性が大きい。

文責：後藤陽子、柏木宏